

モロッコ政治月報(1月)

2016年2月29日
在モロッコ大使館

1月のモロッコの政治情勢等を、当地報道を中心に以下のとおりまとめました。要人往来については末尾の一覧表をご覧ください。

なお、当政治月報は当月中にメディアで多く取り上げられた話題をその都度記録したもので、これらニュースについての当館及び日本政府の立場を何ら反映するものではありません。

【主な出来事】

- ◎ (11～14日) メズアール外務・協力大臣のパナマ及びパラグアイ公式訪問
- ◎ (24日) 真正と現代党(PAM)新党首としてイリアス・エル・オマリが選出。
- ◎ (28日) 次期衆議院議員選挙の日程(10月7日(金))が閣議決定。

<内政・政局・治安>

1 7名からなるテロ細胞の解体(カサブランカ近郊ダル・ブワッサ)

8日付報道によれば、同日、中央司法捜査局(BCIJ)は、ダル・ブワッサ(カサブランカ近郊)で活動していた7名のテロリストを逮捕した。本テロ細胞の首謀者は、シリア・イラクで活動するISILと連携し、リクルートしたモロッコ人戦闘員をISILに送り込み、所要の軍事訓練を受けさせた後、再びモロッコに戻し国内でのテロ活動を行うことを企てていた。

2 パリ連続テロ事件関連容疑者の逮捕(カサブランカ近郊モハメディア)

18日付報道によれば、15日、パリ連続テロ事件に直接関わったとして、カサブランカ近郊モハメディアにおいてモロッコ系ベルギー人であるジェレル・アッタルを逮捕した。同容疑者は、サン・ドニにおいて自爆したテロリストの1名とともにシリアへ渡航したことが判明している。同容疑者はシリア滞在中、シリア国内のアルカイダ系ヌスラ戦線に参加、その後ISILに加わったとされている。同人はシリア滞在中に武器の取扱い及びゲリラ戦の訓練を受け、パリ連続テロ事件の首謀者を含むISIL幹部との関係を結んだ。

3 ISILによるモロッコへの脅迫

21日付報道によれば、ISILがモロッコを脅迫する新たなビデオを発出、支持者に対してモロッコとチュニジアにおいてパリと同様の攻撃を行うことを促した。

4 3名からなるテロ細胞の解体（タンジェ）

21日付報道によれば、14日、BCIJはタンジェにおいてISIL支持者3名を逮捕した。3名の容疑者はISILを支持する過激主義者であり、ISILに合流する渡航資金を得るため、一般市民に対する襲撃と強盗を企てていた。

5 真正と現代党（PAM）新党首の選出

(1) 24日及び25日付報道によれば、22日から24日まで開催されたPAM党大会において、イリアス・エル・オマリが同党新党首として選出された。現在タンジェ＝テトゥアン＝アル・ホセイマ地域圏議会議長を務めるエル・オマリ新党首は、ムスタファ・バクリ前党首が立候補を取り下げた後、ただ一人の候補として党员による挙手により選出された。

(2) 同党大会ではまた、マラケシュ元市長のファティマ・ザハラ・マンスーリが同党全国評議会議長として選出されたほか、613名の同党全国評議会委員が認定された。このうち300名が選挙で選出され、313名は地方議員の資格で選出された。

6 2016年衆議院選挙日程の決定

29日付報道によれば、28日、ベンキラン首相のもとで開催された閣議において、10月7日（金）に衆議院議員選挙を開催すると決定するとともに、9月14日（水）から23日（金）までを候補者受付期間、9月24日（土）から10月6日（木）までを選挙キャンペーン期間として決定した。

<外交・国際関係>

7 サウジ・イラン関係に関するモロッコの立場

(1) 3日、モロッコ外務・協力省は、悪化するサウジ・イラン関係に関するコミュニケを発表。同コミュニケで、モロッコは注意深く事態の進展を見守っており、現在進行中の混乱が今後制御不能な状況に発展することを危惧する旨述べた。また、モロッコは、複数の新しい挑戦や脆弱な要因に既に直面している地域の諸国に現在の状況が広がらないよう、サウジ及びイランの指導者が賢明に対処することを期待する旨呼びかけた。

(2) 10日、同省は、同日カイロで開催されたアラブ連盟緊急外相級会合におけるブーアイダ外務・協力大臣付特命大臣の発言に関するコミュニケを発表、ブーアイダ大臣が本件襲撃に対するモロッコによる完全な非難を表明し、外交団の保護に関する国際約束の違反についてイラン政府の責任を追求したと述べた。

8 パラグアイにおける洪水被害への100万米ドルの供与

4日付報道によれば、1日、モロッコ外務・協力省は、昨年12月にパラグアイで発生した洪水被害への人道支援として100万米ドルの緊急援助の実施を決定したと発

表した。

9 西サハラ地域ラグイラにおけるモーリタニアの活動

8日付報道によれば、7日、ハルフィ・コミュニケーション大臣兼報道官が閣議後の記者会見で、モーリタニア国旗がモロッコ・サハラのラグイラ地域で掲げられたとする国内外の報道を否定した。

10 EUとの協力関係停止の否定

(1) 11日付報道によれば、7日、ハルフィ・コミュニケーション大臣兼報道官は閣議後の記者会見で、EUとの協力関係停止にかかる決定はないが、モロッコの最高位の利益に鑑み、相互尊重の観点からEUとの関係及び当該関係の保全を調整する方向に向かっていく旨述べた。

(2) また、25日付報道は、欧州司法裁判所によるEU・モロッコ農業協定の停止判決を受けたモロッコ・EU関係に関するアラム・モロッコEU代表部大使のインタビューを掲載、その中で、同大使は、モロッコとEUの関係は「停止していない」と強調し、EU・モロッコ農業協定の停止判決を受けて「EUとの関係は断絶しておらず、報復措置もない」と述べた。同大使はまた、「しかしながら、モロッコがEUとの法的安全性につき見通しが得られるまでは、2国間のアジェンダは当然休憩することとなる。戦略・政治・経済・社会のすべての分野においてこの法的安全性を確保するのはEUの責任である」と述べた。

11 メズアール外務・協力大臣による南米訪問

(1) 11日、モロッコ外務・協力省は、パナマを公式訪問中のメズアール外務・協力大臣とダナ・カスタネダ・パナマ国会外交委員長及びルーベン・デ・レオン国会議長との会談に関するコミュニケを発表した。カスタネダ・パナマ国会外交委員長との会談では、モロッコ南部地域の自治権提案及び二国間協力関係の発展を中心に協議が行われた。また、ルーベン・デ・レオン国会議長との会談では、主に二国間の協力関係の手段について議論が行われた。

(2) 12日、モロッコ外務・協力省は、パナマを公式訪問中のメズアール外務・協力大臣とサイン・マロ・パナマ副大統領兼外務大臣の会談に関するコミュニケを発表した。両外相はモロッコ・パナマの二国間関係を強化する方法について協議、両外相は会談で、モロッコ・パナマの友好・協力関係の質の高さを称賛し、関係の更なる向上の必要性を確認した。また、メズアール大臣の今次パナマ訪問では、港湾・海運・物流、外交官養成及び文化の分野における3つの協力・パートナーシップ合意が署名されたほか、在パナマ・モロッコ大使館が開館した。

(3) 14日付報道によれば、13日、メズアール外務・協力大臣はロイサガ・パラグ

アイ外務大臣と会談し、多様な分野における二国間協力関係を強化する方法について協議したほか、在パラグアイ・モロッコ大使館の開館は本年第1四半期に予定されている旨発表した。

(4) メズアール大臣の今次パラグアイ訪問では、ロイサガ外相のほか、カルテス大統領に表敬、バリオス厚生大臣、ヒメネス・ガオナ公共事業通信大臣、アブド・ベニテス上院議長、ボガド上院外交委員長及びマリア・イバニェス下院外交委員長と会談を行った。

12 モハメッド6世国王とメルケル独首相との電話会談

(1) 28日付報道によれば、27日、モハメッド6世国王がメルケル独首相と電話会談を行った。同電話会談は二国間関係の良好な進展を確認する良い機会であり、メルケル首相は、様々な分野における独・モロッコ間の濃密な協力関係を称賛した上で、二国間関係の更なる強化を期待する旨述べたのに対し、モハメッド6世国王はこれに同意した。

(2) また、この電話会談では同様に最近の密航移民問題も取り上げられ、両者は、独連邦内務大臣が近くにモロッコを訪問し、モロッコ内務大臣と本件問題について緊密に協議することに合意した。更に、同電話会談において、メルケル首相はモハメッド6世国王による訪独を要請したのに対し、モハメッド6世国王もメルケル首相のモロッコ訪問を呼びかけた。

<モロッコ要人の外国訪問>

日付	国	氏名・肩書き	目的
1月10日	エジプト	ブーアイダ外務・協力大臣付特命大臣	アラブ連盟外相会議出席
1月10-12日	パナマ	メズアール外務・協力大臣	公式訪問（サイン・マロ副大統領兼外務大臣との会談等）
1月11日	メキシコ	ムーブディ首相付公職・行政近代化担当特命大臣	行政機関近代化のための協力議定書の調印
1月12日	英国	ラミッド法務大臣	フルフォード控訴院裁判官との会談
1月13-14日	パラグアイ	メズアール外務・協力大臣	公式訪問（ロイスガ外務大臣との会談等）
1月14日	独	メリアム王女	ベルリン国際緑の週間出席
1月15日	独	アハヌーシュ農業・海洋漁業大臣	ベルリン国際緑の週間出席、ファゼカ・ハンガリー農業大臣との会談
1月16-21日	U A E	アマラ・エネルギー・鉱山・水利・環境大臣	国際再生可能エネルギー機関（IRENA）第6回総会及び世界未来エネルギーサミット（WFES）
1月18日	ギニア	ブーサイド経済・財政大臣	モロッコ・ギニア・ビジネスフォーラム
1月21-22日	インド	アマラ・エネルギー・鉱山・水利・環境大臣	第4回インド・アフリカ炭化水素会議出席
1月19-20日	スウェーデン	タルビ・アラミ衆議院議長	グスタフ国王表敬及び各種会談
1月21-22日	スロベニア	タルビ・アラミ衆議院議長	パホル大統領表敬及び各種会談
1月21日	サウジアラビア	メズアール外務・協力大臣	イスラム協力機構特別外相級会合出席
1月21日	バーレーン	ラバハ設備・運輸・ロジスティック大臣	バーレーン国際航空ショー出席

1月25日	UAE	メズアール外務・協力大臣	アラブ連盟会合出席
1月26日	エチオピア	ブーアイダ外務・協力大臣付特命大臣	AU総会のマージンでの二国間会談
1月26日	イタリア	ダウディ高等教育・科学研究・幹部養成大臣	ジアニーニ教育・大学・研究大臣との会談，文化・科学分野にかかる協力協定署名式出席

<外国要人のモロッコ訪問>

日付	国	名・肩書き等	目的
1月21日	米国	ドリー国防次官補代理 (アフリカ問題担当)	ルドリ首相付国防管理 担当特命大臣との会談, 第9回米国・モロッコ防 衛協議出席
1月21日	中国	劉玉珠文化部副部長	在モロッコ・中国文化セ ンター設立のための覚 書署名, スビヒ文化大臣 との会談
1月21-23日	仏	ラファラン上院外交・防 衛委員会委員長	ベンキラン首相との会 談, メズアール外務・協 力大臣との会談, 「Euromed Capital」フ ォーラム出席
1月22日	チュニジア	ハリッド・シャウケ議会 担当大臣	ベンキラン首相との会 談, ベンシャマシュ参議 院議長との会談
1月24-26日	サントメ・プリ ンシペ	トロヴォアダ首相, ド ス・ラモス外相, デ・オ リヴェイラ・ラモス財 務・公共管理大臣	ベンキラン首相との会 談, 二国間漁業協力協 定, 二国間投資協定及び 二重課税防止協定の署 名
1月29日	NATO	パヴェル軍事委員会委 員長	ブシャイブ・アルーブ王 国軍総監兼南部方面司 令官との会談, ルドリ首 相付国防管理担当特命 大臣との会談,
1月29日	ギニア	クルマ公職・国家改革大 臣	ムーブディ首相付公 職・行政近代化担当特命 大臣との会談

(了)